

No. J2328

『都市化の中国政治：土地取引の展開と多元化する社会』の出版

東京大学大学院法学政治学研究科附属
ビジネスロー・比較法政研究センター
鄭黄燕

本書は、2023年度「公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団出版助成」を受けて刊行したものである。

1980年代以降、中国では、都市化が急速に進展した。郊外が形成され、都市の周辺区域がその行政区域に編入されることで、都市の領域が拡大した。本書では、この過程を理解する上で欠かせないのが、都市農村関係の視点であると主張する。なぜなら、制度上、都市の周辺区域は農村となっており、各々の農村コミュニティの構成員は土地を共同所有しており、都市と農村の境界は明確であるが、都市の拡大に伴い、その周辺にある農村との境界が曖昧になり、農村コミュニティとの間で土地をめぐる利益分配が都市化の政治の争点になったからである。

都市化が進む中で、だれが得をしてだれが損をしたのか、本書は都市農村の境界にある土地をめぐる繰り広げられた政治過程に迫った。複数の都市でフィールドワークを行い、国家と市場のはざまにおける、都市政府、ディベロッパ、農村コミュニティのリーダーとそのメンバーといった諸主体の相互作用を考察した。土地管理法をはじめとする制度の変遷を時系列で分析しつつ、対象都市での制度の運用を通時的に考察するのみならず、取引の対象となる土地の地目による違い（農業用地のみならず、住宅用地さらには事業用地）を分析した点が特徴である。

このように本書では、ルール、主体、そして異なる地目の土地を対象とした検討を通じて、中国ならではの都市化の過程を析出した。通常、都市の成長には都市行政や企業など都市側の主体の役割が注目されているが、現代中国の場合、農村側とりわけ農村エリートの動きも顕著であることを論証したのである。市場経済化の進展につれて、都市周辺に立地する農村コミュニティのリーダーが主導し、コミュニティメンバーで共同所有する農地を不動産開発地に転換していく現象が、とりわけ1980～1990年代に際立った。そこで、現代中国の都市は、農村側の主導で形成された空間が都市側のインセンティブによって形成された空間と一体化したことによって、形作られてきたのである。農村エリートが主導となって土地の用途を転換した結果、農村コミュニティが財産をもつ団体として都市に存在し続けていく現象こそが、中国の都市化をめぐる政治過程の特徴なのである。

本書が、中国、そして都市化を考える上で一助になれば幸いである。